

# インタビュー

avatarin(株)  
代表取締役CEO

## 深堀 昂 氏

avatarin(株)  
(アバターイン、東京都  
中央区)は、エアライ  
ン大手のANAホールデ  
ィングス(株)発のスタート  
アップ企業。AIやロボテ  
ィクスなどの先端テク  
ノロジーを用いた「世界最  
大の人助けネットワー  
ク」の構築を目指してお  
り、7月に大型の資金調  
達も実施した。今回、代  
表取締役CEOの深堀昂  
氏に話を伺った。



avatarin

——貴社の現在の取り  
組みについて。  
深堀 人が持つ様々な

re(アバターコア)である。大容量の映像、音声を制御データなどをインターネット経由で超低遅延かつ高速伝送できるシステムモジュールで、ロボットやモビリティに搭載することで、遠隔制御機能などを付帯できる。

——これまでの取り組みは。  
——これまでの取り組みは、空港関連以外の取り組みについて。



ヤマダデンキでの実証の様子

銀行(から37億円の融資を得た。資金調達を通じて研究開発を加速するとともに、出資者と連携して人とAIが共存するサービスの創出を進めている。例えば、ソフトバンクからは高品質な大規模言語モデルなどの提供を検討いただいております。ほかの出資者とも具体的な連携プロジェクトが

が必要という考えで、様々な業界に特化したAIサービスを創出するとともに、アバターコアをロボットやモビリティ端末などの多種多様なデバイスに実装し、遠隔操作が可能な端末の種類を増やしていくというイメージだ。ただ、こうした取り組みは当社1社で実現できるものではなく、出資いただいている企業をはじめ様々な企業・団体と連携し、総合的に取り組んでいくことで初めて

も、単にIQ(知能指数)が高いAIではなく、EQ(心の知能指数)が高いAI、例えば、気遣いや思いやりといった日本文化の良い部分を取り込んだAIを開発していきたい。

# AIやロボ技術で人々をサポート

## 大型の資金調達で企業間連携も拡大

プロフェッショナルスキルをAI化して共有できるプラットフォームを構築し、そこに接続された多種多様なロボットやモビリティを人が操ることで、人とAIが共存する社会の構築を目指している。その目標に向けたコア技術の1つが遠隔存在伝送技術「avatarin

深堀 国内の空港において、アバターコアを搭載したロボットによる案内業務の実証などを行ってきた。2023年11月には国土交通省のプロジェクトにも採択され、ANA(全日本空輸(株))と協力し、空港で大規模にアバターロボット(コミュニケーションAIロボット)を稼働させること

深堀 5月にヤマダデンキなどを運営する(株)ヤマダホールディングスと業務提携することで合意した。家電流通業界に特化した接客AIサービスの創出に向けて連携しており、従業員の接客スキルなどをデータ化し、将来的には接客に特化したAIをロボットへ実装し、ロボットが自律的に

——資金調達も実施されました。  
深堀 7月にオムロンベンチャーズ(株)、三菱オブリ(株)ソフトバンク(株)、芙蓉総合リース(株)、(株)みずほ銀行、三井住友信託

——今後について。  
深堀 当社はロボティクス製品を扱うメーカーではなく、困っている方をサポートするためのソリューションを提供する企業だと考えている。そのためマルチモーダルなAIのほか、ロボットなどの「物理的な身体機能」を遠隔操作する技術

実現できるものである。今後は前述のような各業界のトップ企業と様々な業界特化型AIを開発していきたい、まずは空港の案内業務や小売業での接客のほか、金融機関や行政機関での接客業務など高度なコミュニケーションが求められる場面での展開を進める。その業界特化型AIの開発において

——貴社の目指す姿について。  
深堀 今後、人口が減少傾向にある日本は社会のあり方も変わることが求められるだろう。こうしたなか当社としては、困っている方をサポートする存在としてアバターコアを搭載したロボットなどを社会に実装できるプラットフォームを整備し、多くの人が豊かな心を持つ社会を構築するうえでインフラのような存在にしていきたいと考えている。当社のソリューションによって「誰もが、いつでもどこでも助け合える世界」の実現を目指していく。

(聞き手・副編集長 浮島哲志)